

岩倉市議会合併研究特別委員会での講演

1月29日、市議会での講演のために岩倉市に出かけた。早めに出かけて五条川や市役所周辺を散策した。五条川は県内でも有数の桜の名所である。夜桜見物に来たこともあるが、昼間に見る川の風景もなかなかのものだ。



市役所は2年前に新築され、8階建ての明るい感じの庁舎である。10数年前に岩倉市の財政を調査するために来た頃は、古めかしい庁舎だったと思う。この立派な庁舎建設の市財政への影響、合併後にどうなるか気になるところだ。

さて、今回の講演は市議会の合併研究特別委員会の主催である。住民団体から呼ばれて講演することはあるが、議会から呼ばれるのは初めてだ。岩倉市は江南市・大口町・扶桑町と「合併検討協議会」をつくって、合併協議を進めている。この4月には法定協議会設置をめざしており、議会でも勉強会や視察などを行っており、私にもお呼びがかかったわけだ。



議会での初めての講演ということもあり、いつも以上に準備に力を入れた。別に掲載したような講演原稿をつくり、80分間ほど話して、いくつかの質問にこたえた。市長や市議会正副議長をはじめとした議員、それに市の幹部らが出席して、私の辛口の話に耳を傾けてくれた。詳しくは講演原稿を参照してもらいたいが、話の流れは地方制度調査会答申と「三位一体改革」をどう読むか、それに当地域の合併をどう考えるか、という3点である。

この地域では大口町の財政力が抜き出ていることなどにより、これから合併協議が順調に推移するか予断を許さない。私が強調したのは、無理をしてまで合併にこだわるのではなく、自立という「もう一つの選択肢」も視野に入れたらどうか。コンパクトで「成熟都市」的な岩倉市なら、努力しだいで自立の道も可能ではないかという点である。今後の合併をめぐる動きを注目していきたい。

(1月30日 記)